

春風秋霜

4月号

平成27年4月1日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年度に向けて

平成27年度がスタートしました。各学校では校内組織が決まり、入学式の準備が行われていると思われます。これから始まる教育活動において、子供たちにとって安全・安心な学校、信頼される教育という視点を大切に、組織としての動きが見える学校づくりをお願いします。

新しい職場に異動すると、違和感をもつことがあります。それは、経験による価値観の違いから生じるものだと思います。違和感を基にした話し合いは、組織や取り組みの改善につながることがあります。違和感を口にしやすい環境づくりが大切だと思います。

平成27年度の教育方針では、豊かな心を育てるための柱の一つを『根気強く努力する経験や困難に立ち向かう場を大切にし、子供の頑張りや伸びをきちんと価値付ける。』としています。下線部は、昨年度の『認める』から『価値付ける』に変更しています。価値付けるとは、単に認めるだけではなく、その理由まで踏み込んで評価することです。自分の行動を価値付けられた子供は、行動への自信や今後のモチベーションを高くすると思います。

以前、『結果だけより過程を褒めた子供の学力は伸びが大きい』、『過程を褒めた子供は難しい問題に挑戦する意欲が高い』という脳科学の研究を紹介したことがあります。このことともつながります。

授業をはじめ、校内の様々な教育活動において、日常的に子供の表れに対して価値付けが行われれば、『個に焦点を当てた授業』にも繋がり、自己肯定感の高い子供や互いを認め合う子供の増加、学校が楽しいという子供の増加や学力の向上も期待されると思います。

2 中部給食センター稼動について

3月7日に中部給食センターの竣工式が行われました。17億円超という巨費を投じて建設されたこの施設は、念願の最新の安全対策が施されたものです。エアシャワーやワゴン車の殺菌装置、かごに入れたまま洗浄ができる食器洗浄機など、最新式の設備がそろっています。また、外部からの汚れが調理区域に入らないように様々な工夫がされていることも注目すべき点だと思います。

新しい施設を目の当たりにすると、課題のあるこれまでの施設で大きな問題を起こさずに給食が提供できたことに感謝しなくてはなりません。給食に携わる職員の皆様の努力の賜物だと思います。どんな素晴らしい施設も人の力によって動かされます。安全な給食の提供は、最終的には人の力だと実感しました。

新しい体制での給食提供は、慣れが必要です。給食提供開始時には、思わぬトラブルが発生することも予想されます。その場合には、学校でのご理解と柔軟な対応をお願いいたします。学校の協力が無くては、安全・安心な給食が提供できないと考えています。よろしくお願いいたします。



最新の機器がそろった中部給食センターの内部

3 ありがとう体験記の完成について

ありがとう体験記が完成しました。360点を越す応募作文の中から55点を教育委員が選出し、作文集にしました。昨年度から発行部数を増やし、市内の学校の全学級に配布することができました。ぜひ、朝読書などで活用して欲しいと思います。

作文を読むと、ありがとうと言われた子供の行動も素晴らしいと思いますが、子供たちの表れをきちんと認め、「ありがとう」を伝えた周りの人たちの存在が大きいと思いました。今後も、ありがとうの言葉が溢れる学校でありたいと願っています。

なお、本年度の応募作品の一部に、自らの感謝の気持ちをつづった作文が見られました。作文募集の趣旨が、子供たちの自己肯定感を育むことになる、ありがとうと言われた体験記なので、選外としたことをご理解願います。

4 研究論文集について

3月3日に教育論文表彰式を行いました。平成26年度の論文応募数は、15本(16人)でしたが、積極的に論文に応募した方々の意欲に感謝します。

今回の表彰者は以下のとおりです。研究内容については、論文集を読み、今後の実践につなげていただけたらと思います。

- ・優秀賞 五和小学校 持塚直子 教諭
自分らしさを表現する造形活動
～「もの・こと・ひと」との関わり合いを通して～
- ・優良賞 島田第二小学校 佐野知子 養護教諭
児童の生活習慣に関する研究
～生活カード(アウトメディアカード)を用いた保健指導
- ・優良賞 六合小学校 伊原裕也 教諭
「コミュニケーションが楽しい」と感じる外国語活動
～全ての児童が活躍するコミュニケーション活動を通して～
- ・優良賞 六合東小学校 中川奈保 教諭(現 五和小学校)
「主体的に学ぶ態度を育み、学びの質を高める授業改善
～国語科におけるキーワードや言語活動を重視した見通し・振り返りを通して～

肘かけ椅子

五條 早規子 教育委員

3 月 雑 感

この時期になると思い出すことの一つに、自分の卒業式のことがあります。私は、島田第四小学校が現在の場所で落成式を行った年の卒業生です。まだ体育館がなかった当時、250人もの6年生が集う卒業式の会場は、どこだったと思いますか。なんと、屋上でした。

練習はいつも、自分のいすを持って屋上に移動することから始まります。6年生が教室から屋上までの廊下や階段に連なり、到着した順にいすを並べて着席していくのですから、それだけでも時間がかかることは想像がつかます。今の私なら、毎日どれほどの時間を費やしたのだろうと、当時の先生方のご苦勞を察しますが、子供の私はお構いなしだったに違いありません。式当日は、周りのフェンスをぐるり被っていた紅白の垂れ幕が強風で翻り、今にも飛んでいってしまいそうで気がかりでした。

あれから50年近く経ちました。今年も市内の小中学生1780人余の皆さんが卒業し、4月から新しい一步を踏み出そうとしています。先生方が一人一人の子供と向き合い、ご指導を積み重ねてくださった6年間、3年間の日々の偉大さを感じるのもこの3月です。